令和３年度第1回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会概要

〇日　　時：令和３年７月16日（金）10時00分～11時30分

〇場　　所：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所　第二応接室

〇出席委員：国枝会長、相原委員、清水委員、玉置委員（リモート出席）、南雲委員、

三木委員、山田委員

〇事務局　：府民文化部副理事、万博公園事務所長　ほか

〇議題１　諮問

（事務局が諮問文を読み上げ、会長へ手交）

〇議題２　大阪府日本万国博覧会記念公園の現況

（資料に基づいて事務局から報告）

〇議題３　将来ビジョンの中期目標の取り組みについて

（資料に基づいて事務局から報告）

〇議題４　新たな将来ビジョンの策定及び今後のスケジュールについて

（資料に基づいて事務局から説明後、意見交換・質疑）

（国枝会長）これまでの事務局からの説明について、ご意見ご質問をお願いします。

（山田委員）新たな将来ビジョンというが、現行のビジョンは令和10年までという形で動いている状況の中で、従来のビジョンは廃棄して全く新しいものを作るのか、あるいは今のビジョンを修正して上書きし、新たにするのか。

（事務局）基本テーマや基本理念、「目指すべき公園像」は継続して継承していくべきものと考えている。しかし、今般のコロナウイルスの影響などにより公園を取り巻く環境は大きく変化している。現行ビジョンで掲げている4つの目標、7つの基本方針をそれに応じて見直していく必要性があると考えている。

（山田委員）ベースを同じにして、全く新しいビジョンができると考えてよいか。

（事務局）そのイメージである。

（清水委員）以前までのビジョンを見て、ここに入れていくと良いと思うのは、まずSDGs。基本方針②の地球環境の保全に当たると思うが、地球全体のことを考えながら動くことが標準となると思うので、このような視点を入れながら新たなビジョンを考えていくと良いと思う。

インバウンドについて、将来ビジョンのどこに対応しているのかわからないが、インバウンドに限らず、誰もがアクセスできる公園という視点は重要であると思う。この考えは以前よりももう少し大きくとらえる視点になると思う。ユニバーサルデザインなどハードの部分を変更するだけではなく、いろいろな人たち、いろいろな考え、すべての利用者への視点を持つことが重要である。ハードだけではなく、多様な考え方も入れて、誰もがアクセスできる公園としたいと思った。

もうひとつは、DX（デジタルトランスフォーメーション）。ハードだけではなくソフトの部分もクリアできると思う。例えば、単に案内板があるだけではなく、誰もが持っているスマホを使って、QRコードを読み取り、質問や問題があった場合にその場ですぐに対応ができるサービスを提供するなど、デジタルを使った多様なサービス展開に対応できる公園が望まれる。

（事務局）ユニバーサルデザインやSDGsに関して、同じ考えである。DXについてテクノロジーの進化は加速しており、取り入れていくことも必要ではと考えている。

（相原委員）今回、新しいビジョンをもう一度作るということで、ポストコロナを考えていくという意味では非常に良いタイミングで見直しを考えていると思う。

SDGsの話が出たが、その中で自然や文化、また、障がい者やLGBT、人種差別の問題なども、この段階で話し合うことができたら良いと思っている。大きなかたちでDXというものがどのように出てくるのか、議論の対象としていきたい。

昔の万博の「人類の進歩と調和」というコンセプトが本当は「調和と進歩」だったらしいが変わったように、今、このコンセプトにもう一度答えを出さなければならない時期が来たと思っている。

今後の課題でも出ているアクションプランについて、いきなり外国人観光客が戻ることは難しく、国内の利用からインバウンドにつながっていく。

何度か発言しているが、すでに実験も行っているモビリティのかたちについて、公園内だけでなく、例えば今度の万博会場となる夢洲と繋ぎ、その間にある梅田や難波を回るようにできるモビリティも考えられる時代になったと思う。

その中で自然文化園の世界遺産を目指すという話もあったかと思うが、これだけの自然遺産があることは素晴らしいレガシーだと思うので、どのような形で教育や、SDGsに変わっていくのか、真剣に考えてもいいと思う。

（玉置委員）去年、思った以上に入園者数が落ち込んだことは仕方がなく、これから立て直しをしなければならないと考えているが、月によっては思った以上に人が来て、前年を超えた月があった。

審議会に参加して、目の前の万博公園をどうするかという議論をしているが、コロナという状況の中で一度仕切り直しということで、もう少し俯瞰した考えが必要だと考えている。世界の大都市の公園との比較調査が必要ではないかと考えており、都市の中心部であれば、ロンドンのハイドパークや、ニューヨークのセントラルパークがあるが、万博公園は少し郊外にあるので、フランスのフォンテーヌブローなどがあげられる。世界各地の公園がいろいろな課題を抱えて、今新しいことに取り組んでいると思う。世界の公園の運営と、グローバルな公園を目指す万博公園を比較して、俯瞰的な考えができないかと思う。

大阪市の大阪城公園や、「てんしば」は、東京のいろいろな公園や行政の会議で成功事例として挙げられるところ。東京では、玉置も関わっている上野公園のナイトパーク構想というのがあったが、コロナですべて飛んでしまったところ。上野公園は東京の中心から少し離れており、文化施設があるなど、万博公園と似ているところがある。ナイトパーク構想の際に、東京国立博物館と寛永寺などをめぐるプレミアムツアーを行った。また、ユニークヴェニューとして施設への宿泊をしようとしたが、コロナの影響でやりきれなかった。上野公園での新しい活用を考えていた時に、万博公園と通じるものがあると考えていた。万博公園でも、キャンプをするなどいろいろと考えていたので、ユニークヴェニューとしての考え方やツアーなどもあると思う。

上野公園では国立科学博物館があり、学芸員に話を聞いてSpotifyで配信するなどをしていたので、現在も指定管理が努力していると思うが、YouTubeやInstagramを含め、もっと積極的にSNS（ソーシャルネットワークサービス）を使いながら、府民の方、ひろく日本の方、今後復活するであろうインバウンドの方とコミュニケーションをとってコミュニティを作っていけるようなSNSの活用などを考えていきたい。大きなしつらえで考えるチャンスだと思う。

（事務局）新たな将来ビジョンの策定にかかる調査業務については事業者委託を検討しており、海外の事例なども事業者から情報を得て進めていきたい。

（三木委員）もう少し俯瞰的にみるということで、万博のビジョンは1970年から21世紀を想定して、21世紀の技術はどうなるのかなど、様々な生活の変化を予測していた。当時未来学というのも流行していた。50年経ち、昨年いろいろ（記念事業を実施）したが、これから70年万博を知っている人はどんどんいなくなる。今から考える50年先、2070年の未来から見てどうなるのか、未来を考える場所というのを押し出したほうが良いと思う。当時は未来都市と考えていたが、今は自然豊かな公園になっており、未来の都市は自然の中にあるかもしれないし、最近では自然とともにあるべきだという考えもある。未来目線に立つというのもモデルの一つになる可能性もあると思う。特にSDGsは可能性がある。当時、万博は原子力の平和利用を考えていたので、万博のエネルギーはすべて原子力だった。エネルギーと都市というのは一体化している。万博記念公園に関しても周辺に太陽光発電があるが、風力発電や小電力発電、バイオマス発電など、それ以外の様々な発電の方法についても近隣の大阪大学などと協力して実験的に行うなどできればいいと思う。

　　　　　　公園の利用に関して、ロンドンのケンジントン・ガーデンズ内にあるサーペンタイン・ギャラリーは毎年、パビリオンを有名な建築家に作らせているし、2025年の万博で会場設計を手掛ける藤本壮介氏も2013年に参加している。パビリオンを実験的に作る機会を設けても面白いかなと思う。

（南雲委員）前回のビジョンの基本的な方針は、大きな目標として変わらないと思う。当時はとても素晴らしいものができたと思っていた。具体的な取り組みについて、この中にないのがアリーナについて。基本方針④に「大規模アリーナを中核とした」という項目があるが、これに伴う新しい取り組みも含め、ガンバ球場や陸上競技場など万博公園はスポーツ利用が非常に多いところだと思う。エンターテイメントも含めて、使い方を増やしていかなければならないというのは事実としてある。府民の利用価値、また、全国から来てもらえる一つの目標となると思う。

　これに関して、地元近辺では青写真を自治会でもらっていたが、ABCハウジングの場所に共同住宅ができるということで、これはおかしいのではないかと疑問に思った。決定していることなのだろうが、万博の取り組みからすれば、どのような意図で作られるのか。外周道路の外側は問題ないと思うが、アリーナのすぐ横に建つので、それも含めて聞きたいと思う。

一つの大きな変革として、取り組みの中にアクションプランを具体化していくほうが良いと思う。

（事務局）アリーナについて、事業提案の公募を行い選定委員会で選定いただき、5月に最優秀提案者として事業予定者を公表したところ。事業化が決定しているのではなく、最優秀提案者が決定し交渉を行っているところ。事業予定者からの提案の中で住宅があるが、中身についてはこれから協議し、地元の理解を得たうえでの話となるので、今この場で内容について説明することは差し控えたい。

　三木委員から、1970年万博は未来を意識する場であると前回もお話しいただいていたが、これから50年先を改めて考える場所であると我々も考えている。その意味で、しっかりレガシーを継承していくことが大きなスタンスであると考えている。

それを踏まえ、コロナという現状で生活様式が変化し、一度立ち止まったときに、お話のあったDX等の活用も含め次世代に向けてどんな公園を残していくのかというビジョンを描いていきたいと思うので、委員の皆様から闊達なご意見をいただきたい。

アリーナについて、最終的にどのような姿になるかはこれからだが、府はスポーツ・文化の拠点として駅前活性化を進めており、自然文化園との連携、あるいは地域との連携を通して、吹田の地が大阪、関西、日本を代表する場所、世界的に見たときに文化・観光拠点となることを目指していきたいと思う。

（玉置委員）アリーナのプロポーザルの審査委員もしている立場から補足すると、当審議会でアリーナをどうするかという話もあった。その時に、ラスベガスのT-モバイルアリーナのような最新型のアリーナを作るべきだと言ったことがある。プロポーザルではそれを反映したものになっていて、結果的に今の事業予定者が選ばれた。

事業予定者は世界中のアリーナを作っている事業者でもあるので、多分、今度できるアリーナは、計画通りであれば日本で初めてのグローバルスタンダードな世界のエンターテインメント、スポーツ等がサーキットで回れるアリーナになると思うので、今後万博エリアの一つの大きな核になっていくのではないかと期待している。プロポーザル審査の段階で見たところ、計画はアリーナに加え、周辺のまちづくりも含めたものになっているので、うまく万博公園と融和する形で進行していくといいと思う。ボストンにTDガーデンというアリーナがあるが、ボストンは日本でいうと京都のような街だが、そういう街の中でのアリーナの在り方等も参考になると思うので、世界各地のアリーナと周辺施設の在り方もぜひ一緒に調査して、参考にして、日本の中の新しい文化・観光拠点の一つの核になれば良いと思う。

（国枝会長）デジタル化やDXといった視点、また、海外の公園を参考にする等、観光学の分野では公園管理、ナショナルパークでAIの活用が進んでいる。例えば、海外の場合、広大な敷地があるので、野生動物や健康管理のモニタリング、また、駐車場のマネジメントなどが研究でよく出てくる。他のパブリックセクターでのAI活用やDXの取り組みが参考になると思う。

また、コロナ禍で、今までと違う公園の使い方や、違う客層が来ていたか等をお伺いしたい。特に観光地で、Go Toキャンペーンを使って、若い方が京都観光に来ていたという傾向もある。運動不足で健康づくりに関心が高まっているという傾向もあるため、公園の違った使い方があれば教えてほしい。

（事務局）色々なイベントが制限されている中で、健康のために普段から利用できる人がコロナ禍においても顕著に来園している傾向があると言えると思う。

（国枝会長）大阪文化芸術フェスは、コロナ対策を施して実施していたのか。

（事務局）10月10日、11日に開催されたが、当時、イベントの集客制限がかかっていた。各施設において感染症対策をとった上で、5000人上限等ある中で、東の広場、お祭り広場、もみじ川広場に、イベント会場を分散して、施設を貸し切り、一日当たり1.5万人に来園者を制限して、文化の発信を目的に開催した。

（国枝会長）一つのプロトタイプ、安全に開催できる実績ができたということではないか。

（事務局）コロナ禍でどのように文化発信ができるかに対するプロトタイプとなったと考えている。また、8月にはドライブインシアターを実施し、家族や友人同士で参加し、他のグループと接しないよう感染対策をとりながら、イベントを実験的に開催した。

（三木委員）今年、1970年大阪万博50周年記念プログラムを見に万博記念公園に行った。小さい子どもがいるとコロナ禍で行く場所が非常に少ない。奈良県に住んでいるので、平城宮跡に行くことが多い。広いので自然とソーシャルディスタンスが取れるため、人気がある。万博記念公園も子ども連れでにぎわっていたが、敷地が広いため子ども同士の接触も少なく、ポストコロナ時代に向いた公園だと思った。その時、民博と大阪日本民芸館と見て、池でボートにも乗ったが、府民からするとポストコロナ時代には向いた場所になると思った。今回のコロナがいつ収まるかわからず、今後も新たな感染症が発生するかもしれないので、万博記念公園が安全に利用できる場所として付加価値が高まるのではないかと思った。

万博レガシーの包括的な活用に関して言うと、先日、大阪中之島美術館が竣工したため、取材に行った。大阪中之島美術館は、アーカイブが充実しており、大阪万博に関する資料も持っている。例えば、お祭り広場で開催された「具体美術まつり」は公式資料にはほとんど掲載されていない。

2017年にパリのポンピドゥー・センター・メッスで1970年から現在までの日本人アーティストの展覧会が開催された。その時のキュレーターは長谷川祐子さん。私は、大阪万博の展示に関して資料調査を手伝い、原稿もカタログに寄稿したが、具体に関する公式資料の写真は少なく、公式記録映像にはなかった。

大阪中之島美術館には具体（具体美術協会）のリーダーだった吉原治良さんの資料や、具体のメンバーだった吉田稔郎さんが自ら8ミリフィルムで撮影した「具体美術まつり」の資料がある。大阪中之島美術館はアーカイブに力を入れるそうなので、うまく連携していくと、付加価値が上がるのではないかと思う。万博記念公園が持っているのは、公式資料に限られているので、周辺のパビリオンや企業館の資料はまとまってない。大阪中之島美術館もパナソニックやサンヨー、シャープなどのアーカイブを集めているそうなので、うまく連携できれば面白いと思う。

万博は集まることが前提に作られているが、今後は集まれないということも想定されるので、常時つながる、SNSの発信等デジタルの使い方もあると思う。

昨年度、いくつか開催されたオンライン・アートプロジェクトについて記事を書いたが、その中で面白いと思ったのが、音声の発信。映像の発信はまだ試行錯誤の段階だが、音声も可能性がある。例えば、万博記念公園には自然が豊かな場所があると思うので、年間を通じて鳥の声を配信するなど、万博記念公園に来られなくても常時接することができるということも考えてもいいのではないかと思う。

（相原委員）ポストコロナを見据えて、普段使いという観点でいろいろなことができると考えている。パークマネジメントを考えると、先日欧州サッカー選手権があり、オリンピックパークであるウェンブリースタジアムで行われていたが、その周辺は本当に普段使いをされている。子どもが多いので、倒れてもケガしないような公園が整備されている等、普段から賑わっていて、日常で使われているところ。そういうものができるといいと思う。

Wi-Fiがあれば、仕事でも普段使いできると思う。犯罪が多いところにWi-Fiと椅子とテーブルを置いておくだけで、人が集まって平和な公園になっていったという例もあるので、普段使いという意味で大事かと思う。

パリには万博のパビリオンである市立美術館が残っていて、レガシーにあたると思う。マディソン・スクエア・ガーデンについても、少し離れているかもしれないが、普段使いとして考えられると思う。

例えば、2070年で考えると、原宿にあるトヨタの未来研究所に行ったことがあるが、未来年表で100年後のことを考えている。そこからモビリティと考えてということにつなげていたので、一緒にできることはないかなと思う。例えば、DXについて、世界同時ブレスト会議みたいなものができるのではないか。グローバルスタンダードのパークマネジメントを考えたときに、ポテンシャルが上がるのではないかと思う。2025年に万博があるので、これにより注目度が上がり、V字回復を世界中に見せることができるのではないか。

（玉置委員）観光庁の観光白書で、富裕層ビジネスについても書かれていたが、観光庁の政策も参考にしながら考えた方がいいと思う。

（国枝会長）世界第一級の文化・観光拠点を目指すというところについて、最初に観光資源があって、ここを拠点にしようというのはよくあるが、公園から文化と観光を発信するというのはあまりないユニークな視点だと思う。海外の公園を参考にする例もあったが、何か意見はあるか。

（山田委員）観光においては、京都と奈良と張り合う話ではない。万博公園はスポーツ施設が多く、他のところにはない売りになる。アリーナもできるので、スポーツ・文化の発信という形で周知すればよいのでは。観光全般を含めて、観光拠点とは言い難いという印象がある。今あるものをベースにしながら、特徴を活かしてアピールするのが得策かと思う。

（清水委員）日本ではすでに第一級の公園だと思うので、それを世界第一級へ、ということだが、ポテンシャルはあると思う。今日の話をまとめると、「つながる」ということなのかと思う。地域の人とつながる、ビジターとつながる、他の文化施設とつながる、海外の他の公園とつながる、どんどんつながってファンづくりをしていく。そのつながり方が、来場してもつながる、来場しなくてもつながる、そしてAIやDXを使ってつながる。そのような可能性を考えていけたら、公園のポテンシャルがもっと広がるのではないかと思う。

（南雲委員）公園があり、文化があり、なおかつスポーツができるというのは、万博公園の特徴。地域の市町村含めた、協力の下でできているので、そこに特徴があると思う。地域とつながる、文化とつながる、これからはいろいろな意味でのつながりがある。

（玉置委員）俯瞰してみるということで、世界の色々な事例を話したが、大阪、関西の地政学的な位置も大事だと思う。今度の万博も絡めて、医療的な地域特性もあり、大阪大学が軸になって北摂エリアが医療地域に指定されている。

大阪には他にも鶴見緑地や大阪城公園等もあるが、緑の少ない大阪の中で、万博公園がどういう言う位置なのかというのを考える必要があると思っている。万博公園だけが頑張るのではなく、他の公園や拠点とのバランス、防災の話にもつながると思うが、俯瞰してみた時に、万博公園が大阪、関西の中でどういう意味があるのかを考える必要があると思う。

（三木委員）関西の観光というと、歴史をテーマにすれば古い遺産がある京都や奈良にはかなわない。大阪は歴史が浅いものが多いことがむしろ特徴だと思う。以前、大阪の近代建築や戦後の建築を紹介する本を作ったが、大阪が面白いのは大大阪時代と呼ばれる大正末期から昭和初期のあたり。その当時は関東大震災もあって、大阪が一時的に中心的な役割を担ったので、近代建築や文化が面白いと思い、集中的に取り上げた。大阪が面白かった時代は、大大阪の時代と、万博あたりの時代。朝の連ドラではその２つの時代が取り上げられることが多い。

大阪は空襲があったので古いものはあまりたどれない。戦後の建築は、新陳代謝が早くてほとんどない。戦前のものも一部残っているが、改修されて新しくなっている。常に新しく更新されていく、生きているということがテーマ、魅力なのではないかと思う。大胆に実験を繰り返し、常に更新して生きているというのが万博記念公園の魅力であり、生命科学もあり、近隣には大学もある。積極的に子ども、若い人を取り入れるというのが大阪に向いていると思う。

（国枝会長）予定よりも時間が早いが、たくさんの意見が出たため、ここまでとしたい。多種多様な意見が出て整理が必要だと思うので、事務局で集約・整理して後日各委員にお知らせいただきたい。また、検討スケジュールについて、事務局からの説明のとおり進めたいと思うが良いか。

（各委員異議なし）

（国枝会長）それでは、これをもって大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会を閉会する。

今日いろいろと意見が出たので、DX関連に精通した委員の追加はどうか。

（各委員異議なし）